

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100108		
法人名	医療法人社団 湘風会		
事業所名	グループホーム ラパス		
所在地	栃木県矢板市泉557-1		
自己評価作成日	平成30年10月25日	評価結果市町村受理日	平成31年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	平成30年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域のボランティア(和太鼓・ハーモニカ手品など)の受け入れや地域の行事(公民館祭りに作品展示・自治公民館夏祭りの模擬店で食事)隣接している中学校から招待をいただき楽しいひと時を過ごしています。また、朝食・おやつの手作りで提供しています。日々の活動として体操(ラジオ体操・足の体操・腕の体操・尿漏れ防止体操・口腔体操など)を以前に比べて多く取り入れております。また、午前中の活動は動きのある内容で午後は静かなDVD鑑賞や塗り絵・脳トレーニング(ことわざ・トランプ・カルタ・算数など)を実施しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は矢板市の近郊にあり、周辺には民家も多く、保育園や小中学校、自治公民館、市の公民館もある。開設当初からの理念「ゆっくり、一緒に、楽しみながら」を大切にしており、利用者一人ひとりのペースに合わせて寄り添い、喜んでもらいたいとゲームを手作りし、楽しんでもらえる外出を企画して支援している。職員と管理職は話しやすい、意見を言いやすい関係ができていて、職場環境も明るく、利用者主体の支援体制作りにつながっている。地域の人達との交流にも積極的で、小中学校の運動会に招待されたり、公民館の文化祭にぬりえを出品したり、火災訓練に参加してもらったりしている。事業所の秋祭りには太鼓のボランティアが参加し、家族や地域の人と一緒に楽しんでおり、利用者が馴染みの人に会う機会にもなっている。隣接する同じ法人の小規模多機能型居宅介護事業所と合同学習会を開き、地域の人達と一緒に認知症や介護保険について学んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所当初からの理念にある「ゆっくり・一緒に・楽しみながら」を前提に日々取り組んでいるが新たな独自の目標設定を職員一同で考えている段階です。	開所当初からの理念「ゆっくり、一緒に、楽しみながら」は定例会議などで毎回取り上げ職員に周知されるよう努めている。利用者の状態が重度化してきているからこそ理念にそって、一人ひとりのペースに合わせて寄り添い、喜んでもらえるゲームを考案したり楽しんでもらえる外出を企画したりして支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	こもれびと合同行事(秋祭り)や地域住民によるボランティアの来訪や大学の実習生の受け入れを引き続き実施している。オープンカフェの準備を少しずつ考えているがまだ実現できていません。	地域との交流に積極的に取り組み、地元の小中学校の運動会に招待されたり、公民館祭りに利用者の作品を出品したり、事業所の秋祭りに近隣の人達に参加してもらったりしている。大学の実習生を受け入れ、その実習生がクリスマス会に歌いにくれている。隣接している同じ法人の小規模多機能居宅介護事業所と合同で市職員の出前講座を開き、認知症や介護保険などについて地域住民と一緒に学ぶ機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	こもれびと地域住民を交え合同勉強会(認知症サポーター研修など)実施しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長やご家族様・市職員・民生委員などからの意見や助言をもとに地域行事へ参加しています。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、民生委員、区長、市職員、地域包括支援センター職員、利用者家族代表が参加している。事業所の活動実績や行事での利用者の様子などが報告され、参加者から地域の情報をもらっている。今年度からは身体拘束等適正化のための指針に基づき、これらの対策についても運営推進会議で討論することになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	矢板市主催の勉強会・シンポジウム等に参加したりグループホーム交流会で施設見学や勉強会などに参加して情報交換も同時に実施しています。	運営推進会議に市職員が毎回参加し情報交換をしている。市が事務局を勤めているグループホーム交流会の施設見学会や情報交換会に参加して、レクリエーションの内容や対応に困った頻尿、帰宅願望への対策事例の情報をもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度から身体拘束の指針に基づいて運営推進会議の時間を利用して当施設の身体拘束の現況を報告・連絡・相談することになり話し合いをしています。と同時に勉強会も実施もしています。	玄関は日中は施錠していない。車椅子で座位を保てない利用者にはずり落ち防止ベルトではなくクッションを適切にあてがうことで対応している。歩行困難な利用者の夜間のベッドからの立ち上がり時転倒防止対策には、ベッド柵を設置するのではなく人感センサーの設置や物音が聞きやすいようドアを少し開けておき1時間毎に確認対応することで拘束をしない支援に努めている。今年度義務づけられた身体拘束等の適正化のための指針を策定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会で話し合いを持ち常に虐待の防止に努め言動に十分に気配りをしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を実施しながら理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、管理者・ケアマネジャーが中心となりご家族様に十分な説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様やご利用者様の要望苦情を面会時に直接確認をするなどの他に玄関に気軽に書けるように苦情箱を設置しています。	毎月の利用料の支払いに来所する家族と面会して要望を聞きたいと考えているが、家族には遠慮もありなかなか聞き取れていない。利用者の要望は職員と一対一になれる入浴介助の時や、隣に座ってゆっくり話ができる機会に聞き取ることができ、髪型の要望を聞いたり、食べたい物がリクエストされると花見などの行事外出の時に外食で実現している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の定例会議に出席して意見交換・情報交換に努めて施設長から助言をいただいています。	職員は、毎月の定例会議等で要望や提案を出している。利用者の現状についての問題点や意見を出し合い、支援のために必要なものの購入を提案して、シャワーチェアの購入やトイレの手摺りの設置など、利用者や職員の負担軽減につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当施設に来所時に職員個々に施設長から言葉を掛けたり職員から相談をしたりして施設長と管理者で情報を共有しながら就業整備を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	矢板市の研修や法人内外で研修を受ける機会を設け勤務の都合などが合う場合には、参加するように促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	矢板市内のグループホーム交流会に参加して意見交換・施設訪問・勉強会を計画して当番制で対応しています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを通して会話を多く持ち本人の要望を聞き取りしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時や入所が決まった時などにご家族様の要望などを聴いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様などのニーズを抽出できるように努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	重度の利用者様が、多いのですが身の回りの事で自分自身で出来る事は、極力見守りながら行っていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に利用者様の状態に変化などが生じた場合は、電話や面会や通院で来所した際に状況を説明しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域との交流行事や突然の面会でもいつでも利用者様に気軽に会えるように対応しています。また、以前に利用していた美容院へ出掛けたりしています。	家族や親戚の人、知人が訪ねてくる。隣接する小規模多機能型居宅介護事業所から移ってきた利用者はその職員と顔馴染みになっていて、会う機会があると親しく話をしている。事業所主催の秋祭りは地元の参加者も多く、知人と会える機会にもなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の性格や言動に注意しながら孤立しないように座席を検討しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院した場合は、面会に行き看護師やご家族様そしてご本人と話をしながら情報を共有しています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様ご本人の意向に沿えるように職員一同で検討をしています。	利用者が重度化してきているので思いや意向の把握は困難になってきているが、職員はゆっくり寄り添うことで少しでも思いを聞き取りたいと努めている。利用者の表情が明るくなるよう、一緒に楽しめる手作りゲームをしたり、ウッドデッキで歌をうたったり、行事外出を充実させるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時や面会時にご家族様やご本人の会話などから情報を集めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝一の挨拶で利用者様の顔色などを見たりバイタル計測時・便所介助や体操の時などで体調の変化を見ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会議や朝夕の申し送りでご利用者様の状態を話し合っています。	利用開始時には、本人や家族から要望を聞き取り、サービス担当者会議で話し合い、介護計画を作成している。始めの3ヶ月は毎月、その後は3ヶ月毎にモニタリングを行っている。ケアマネージャーが日中は現場に入っており、夜間の様子は夜勤者に聞き、毎月の定例会議で利用者の状況についての話し合いなどにより、モニタリングを作成している。その後は、課題や問題点について職員と話し合い、本人や家族の要望を聞いて、サービス担当者会議を開催し、必要に応じて計画を見直している。重度化が進んでいるので現状を維持することに重点をおき、下肢筋力強化に力を入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の体調の変化・行動・言動などは朝夕の申し送りで情報を交換して改善すべきところは、話し合っています。シフトに入りながら状態を看ています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の要望を聞いてニーズに対応するよう努力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントなどになるべく参加したり近隣の小中学校との交流や色々なボランティアに来所をしていただき楽しい時間を過ごしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院の定期受診は、原則としてご家族にお願いしていますが急変時などで遠方の場合には同行したりかかりつけ医の往診もお願いしています。	病院への受診介助は基本的には家族に対応してもらっている。救急の場合や家族が遠方の場合には管理者やケアマネージャーが付き添ったり、病院で家族と合流するなどの対応をしている。月一回訪問診療に来てもらっている利用者もいる。家族が受診介助の場合には、利用者の状況についてケアマネージャーから口頭又は文書で伝えている。受診結果については、日勤職員が家族から聞き取り、申し送り等で他の職員に伝え情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している事業所(こもれび)の看護職と情報共有しながら助言をいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、出来るだけ情報を病院担当医に伝え退院時には拡大カンファレンスをお願いして状況を把握するようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度のご利用者様が、多いので職員間の意見交換を頻繁に行ったりターミナルケアの勉強会を実施したりご家族様に説明をするようにしています。	入居時に、重度化したり医療的措置が必要となった時には事業所では対応できない場合があると説明している。利用者の多くは特別養護老人ホーム等に申し込んでいるが、何もしていない人もいる。重度化している利用者が多いことから、今後は事業所での看取りを希望する家族が出てくる可能性もあり、その対応や取組について検討していかねばならないとしている。	看取りに関しては、医療との連携など体制が整っていないためこれまで事例はなかったが、今後は事業所での看取りを希望する家族が出てくる可能性がある。このため、状況に応じた家族との話し合いや職員の研修など、今後の対応を早急に検討することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの読み合わせなどで勉強会を実施するように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練(昼間・夜間想定)で消防署立会いの下で実施しています。尚、地域住民の方にも協力をいただいています。また持ち出し書類も解りやすい場所に保管してあります。	火災訓練については、消防署職員立ち会いの下、昼間想定と夜間想定で年2回実施している。訓練の際には、近くに住んでいる民生委員や非番の職員も参加している。非常時の持ち出し書類はリストアップしてあり、手の届く範囲に置いてある。災害備蓄品は、現在は賞味期限切れとなっており、これから買いそろえる予定となっている。	火災訓練の際には、近くに住む民生委員や非番職員が参加しているが、避難した利用者の見守りなどのために、区長などを通じて近隣住民の協力要請を行うことを期待したい。また、地震や水害など火災以外の災害の避難計画についても今後検討することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様にあつた呼名や便所誘導の実施をしております。努力をしております。	言葉づかいに関しては、誇りやプライバシーを損ねない対応をしているが、利用者の半数ほどがこの地域の人で職員も地元の人が多いということもあり、利用者によっては地元出身の職員が馴染みのある地元の言葉で対応することもある。トイレ誘導の際には、周囲に気付かれないような声かけや対応をしている。トイレのドアは原則閉めるようにしているが、利用者の中での様子の確認や声かけのために少しは開けている。現場で使用する個人情報書類は人目に付かないようタオルで隠すようにしており、職員に対して接遇研修を行うなど、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々ご利用者様の気持ちを分かり合えるようによき関係を築き思いをくみ取れるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人ひとりの行動・ペースが違うので出来るだけ寄り添った生活ができるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整髪したり入浴後や外出時にご利用者様と時節に合わせた衣類を準備して月1回の散髪を実施しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の出来る力を生かしながら職員と一緒に昼食やおやつを作っています。	昼食と夕食のおかずは、近所の魚屋から取っているが、魚屋が休みの日だけ食材業者からレトルト食品を届けてもらっている。主食と味噌汁、毎朝及び行事の時の食事は職員が作っている。3時のおやつは職員手作りのお菓子が出てくる。花見やリンゴ狩りなど季節を感じる外出の際には、利用者に人気のある寿司などを食べてくる。近くの食堂から出前を取ることがあり、メニューから選んでもらうが、ラーメンやカツ丼などが多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量に目配りをしながら必要に応じて言葉掛けしながら対応しています。栄養面にも同様に気配りしながら対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施して苦手なご利用者様には職員が、付き添って対応しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ある程度の時間を目安に適宜言葉掛けしながらご利用者様に合わせた便所誘導をして可能な限り排泄物の確認もしています。	全員がリハビリパンツを使用しており、頻尿で睡眠不足になる人のみ夜間だけオムツを使用している。自分でトイレに行ける人もいるが、多くの方は個々にその人に合った時間や、様子を観察して状況に応じた誘導をし、トイレで排泄ができるよう支援している。トイレでの自立を支援するために、職員提案で入口から便座まで手摺りを取り付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を確認したり昼間・夜間の職員の申し送りも参考にしながら下剤の増減や入浴で腹部を温めたりするなどしながら対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様一人当たり週3回の楽しみのために時節合わせたり(菖蒲湯・ゆず湯など入浴剤)状況により午前午後を変更するなどの対応しています。	入浴は個浴で、週3回午後の時間に入っている。職員1人が付き添い入浴しているが、浴槽が深いため、状態によっては浴槽から出る時に2人介助となることもある。現在は入浴拒否や異性介助を嫌がる人はいない。季節により菖蒲湯やゆず湯にすることもあり利用者に喜ばれている。浴室が広いので職員からの提案で浴槽と脱衣室や洗い場との移動用にキャスター付きのシャワーチェアを購入し利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の居室の室温・加湿などへ気配りしながら夜間の入眠中は、足音などにも気配りをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様一人ひとりに服薬前に誤薬を防ぐ意味で本人の氏名・日付・時間などを読み上げて完全に服用するのを見届けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前に比べて介護度が上がってしまい現在は一部のご利用者様が、洗濯物をたたんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出行事を取り入れて出掛けています。	暖かいときには近所を散歩することもあったが、重度化が進み散歩に出かけるのが難しくなっている。今は、敷地内を散歩したり、ウッドデッキで日光浴やゲームを楽しんでいる。限られた利用者ではあるが、職員が食材の買い物に行くときに一緒に出かけることもある。季節を感じるために、桜、芝桜、ツツジ、あじさい、紅葉などの見学に出かけ、外食も楽しんできている。家族と通院介助で出かけた帰りに食事をしてくる人、お盆に出かけて墓参りや食事をしてくる人もいて、家族に対して利用者との外出を働きかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物デイ等を計画して職員が、見守りながら買い物をして代金を利用者様が支払っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からのお手紙は、個々に渡しています。状況により電話でお話もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロア内に季節を感じられるものを置いたり花やカレンダー・塗り絵などを飾っています。	日常的な居住空間である居間兼食堂は、天井が高く天窓からは明るい光が差し込み、木材が多く使われている室内は木の温もりが感じられる。居間兼食堂に併設してウッドデッキがあり、室内からすぐに出られ、日光浴やゲームなどを楽しむことができる。壁には、利用者の作品を飾り、笑顔が見えるイベントの写りが貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて仲の良いご利用者様と一緒にお茶を召しあがったりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者差の居室内にご家族様の写真や作品などを貼ったり寝具などの整理整頓をしています。	居室は花の名前が付けられており、入口ドアには名前が書かれたイベント時の本人の写真が貼ってある。カーテンと壁紙は同色で統一され、イエロー、グリーン、ピンクの3種類ではあるが部屋ごとに異なっている。洋タンス、エアコン、ナースコールがあらかじめ備え付けられている。ベッド、家具など好みの物や使い慣れたものを持ち込み、家族の写真や個人の作品を飾り、それぞれ個性のある居室空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当施設内に段差は、ありませんが滑ったりつまずいたりしないように気配りをしています。また、転倒防止に人感センサーもタンスの上に置き対応しています。		